

歴史探訪

クラブ

其の
101



History Inquiry Club

文化財課 ☎23局 3635

FAX 22局 3811

戦争と二宮金次郎

7月の初めに泉小学校を訪れました。黒松に囲まれた落ち着いた雰囲気、歴史ある学び舎の姿を見ました。校庭には、さまざまな記念の石碑が建てられ、その隅に児童を長く見守ってきた二宮金次郎の像がありました。この像は、石製でも金属製でもない、珍しいセメント製のものです。(二宮金次郎の像については歴史探訪クラブの48号でも触れたことがあります。)

さて、セメント製というところから気がしますが、実はそうではありません。



ません。セメントは、明治から昭和初期にかけて最新の素材として注目されてきました。建築家や芸術家などの職人が、建築や彫刻用の石、金属、木、陶器などに代わり、この素材を使って新しい表現に挑戦していったのです。ちなみに日本で最初に金次郎像が設置されたのは前芝小学校(豊橋市)のセメント製の像で、大正13年(1924)のことでした。



▲像に取り付けられたプレート
▼泉小学校の金次郎像

贈 豊橋市 榎原才一 昭和九年十一月三日建像 本像ハ元銅製ナリシモ大東亜戦争下昭和十七年八月応召硬化石製ヲ以テ再建像セリ」と刻まれています。つまり、もともとの銅像は、昭和17年に戦争の軍事物質として差し出され(供出)、その

後、ほとんど硬化石製(セメント製)で新しく作られたのです。他にも、供出の事実がわかる金次郎像は、童浦小学校(元は北部小学校のもの)にもありました。台座には立派な金属プレートが付けられ、寄付者の名が連なっています。その下には「岡崎市 鑄造 藤嶋貞造 岡崎市 塑像 多和田泰山」とあり、昭和9年4月1日に作られたとあります。この像は鑄造であったことから、銅製であるはずなのに、現在は石製です。つまり、もともとの金次郎像は供出され、石製のものに換えられたのです。この残されたプレートにより、金次郎像が供出された事実がわかります。

戦争時には銅像はもちろん、あらゆる金属が供出されました。歴史

後、ほとんど硬化石製(セメント製)で新しく作られたのです。他



▲像に取り付けられたプレート
▼童浦小学校の金次郎像



探訪クラブの55号で紹介した寺の梵鐘もその一つです。人々の生活の道具はもちろんのこと、信仰や尊敬、平和の象徴であった大切なものまで「国家総動員法」の名のもとに、人だけでなく物質までも容赦なく戦争へ送り出されていったのです。児童のヒーローであった金次郎像が運び出される姿を見て、児童たちはどのように感じたのでしょうか。泉小学校の金次郎像を見て、戦争によって起こったすべての悲しみを乗り越え、戦争のない世界を築くことが今を生きる私たちの務めであると感じた日でした。

※寺院で鐘楼につり下げ、丁字形の棒でつき鳴らす鐘。(増山)

今月の「表紙」

▼サンテパルクの水遊び広場は、涼を求める親子連れで大にぎわい。水深が浅いので、小さな子でも安心して遊ぶことができるのも魅力の一つで、初めての水遊びを体験している子もいました。皆さんもこの夏、いろいろなことに挑戦して、楽しい思い出をたくさん作ってくださいね。(O)

【表紙の写真】サンテパルクたはら水遊び広場